

サタデー コラム

商を創業しました。主に銘木秋田杉を扱うことから秋田屋と号しました。明治になり西洋ミツバチを利用する近代養蜂が

バチに関心を持ち日本での飼育に適した巣箱を研究し、赤身の秋田杉で作った巣箱を商品化しました。これを機に養蜂問屋

にあつた台湾、朝鮮半島、旧満州と広い範囲にわたる取引、さらには欧米との貿易もあり通信、物流には長い月日を要しました。商

中村源次郎・秋田屋本店社長

の途中で代替わりすることもあり、誤認が起る可能性がありました。

そんなことが何となく分かっていたので、襲名の時期が延びてしまい、決断した時には父が亡くなつて19年がたつていました。たくさんある手続きは、いまだ済ませていないものもありますが、

商家の襲名、重み自覚

署名をはじめ、呼ばれたり、名乗ったりする時に父、祖父、先祖を慕う気持ち、心掛ける所存です。

私は昨春秋に「源次郎」を襲名し、「正」から名前が変わりました。商家では代々襲名し家業を承継する習わしが残っており、当方も私で9代目となります。初代源次郎は1804(文化元)年に岐阜加和屋町(現在の岐阜市本町1丁目)で材木

始まり、岐阜はわが国近代養蜂発祥の地、養蜂の中心地となりました。6代目は岐阜で最初に洋服を着たといわれるほど新しいもの好き。欧米から紹介された西洋ミツ

へと業種転換しました。通信・交通が不便な時代には、商家にとって屋号と当主の名前は一体化して周知されていまして、戦前は取引先が国内だけでなく、当時統治下

そのため、商家では襲名が必要かつ合理的手段であったようです。「秋田屋・中村源次郎」と屋号ですが、芸能界と商家の襲名は違います。本名を変えることは大変な手間と労力がかかります。



なかむら・げんじろう
1951年、岐阜市生まれ。博士(医学)。県
経済同友会筆頭代表幹事。岐阜南法人会長。県製薬協会会長。みつばちの家理事長。県養蜂組合連合会長。県研究開発財団評議員。岐阜放送番組審議会委員。県フェニクス協会会長。県立岐阜北高校同窓会長。